

## 廃材プロジェクト Vo. 5

—宮城県石巻市の床屋—

細 田 みぎわ\*

(2020年12月1日 受理)

設計・監理：細田みぎわ + Hosoda Archi-Studio

Reproduction Project Vo.5 of Scrap Wood  
by Barber in Miyagi Ishinomaki City

Migiwa HOSODA\*



写真1 外観 手前が駐車場、右が店主の自宅

---

\* 広島女学院大学人間生活学部生活デザイン学科教授

## 1. はじめに

本研究は、筆者が2011年から活動している廃材プロジェクトの一環である。住宅の廃材（木材）に役割を与え、産業廃棄物として焼却される時期を少しでも後に伸ばし、CO2排出を抑えることを目的としており、なるべく多くの人と関わりながら、その重要性や汎用性を探る活動である。Vol. 1「森のかけら展1」、Vol. 2「森のかけら展2」、Vol. 3「犬島／廃材／ワークショップ」<sup>注1)</sup>、Vol. 4「詩人の家」、と4回の活動（表1）に加え、端材利用として、「積層する机」（2006）、「街の電気屋／店主の城」（2017）<sup>注2)</sup>においては、現場で耐震補強として使用された構造用合板の端材を利用して家具や階段などを製作したプロジェクトがある。

今回は、2017年、宮城県石巻市において開催されたリボンアートフェスティバル2017で使用后、倉庫に保管されていたCLT（Cross Laminated Timber）を再利用した。「詩人の家」<sup>注3)</sup>において再利用したCLTと同様のものである。リボンアートフェスティバル2017より2年経過し、ほとんど大判の廃材が残されていない中、なるべく大きいものを選び、継いで使用することとなった。

表1 廃材プロジェクト一覧表

Vol	活動名	年月	場所	内容
1	森のかけら展 vol. 1	2011	奈良市 ギャラリー	端材（集成材）の再利用方法を募集 一般木造住宅の構造材の端材が、製材工場では高額で処分されている事実を提示し、ワークショップでは、会場に設置された端材で組み上げた掲示板に案を示し、投票を行った。
2	森のかけら展 vol. 2	2012	大阪市 中央区	照明器具の製作 森のかけら展1の提示案の中から照明器具の可能性を見出した。プロのアドバイスを受けて実物を製作する場を会場に設け、最後に講評会を実施した。
3	犬島／廃材／ワークショップ	2016	岡山県 東区 犬島	犬島で利用する椅子の製作 過疎化の進む瀬戸内海の島で廃屋の木材を利用し、島の人、観光客が利用できるものに再生した。合計4回開催
4	詩人の家	2019	宮城県 石巻市 鮎川	CTLの再利用 リボンアートフェスティバル2019の開催中、詩人吉増剛造氏の過ごす空間を作った。前回の同フェス2017で使用后、倉庫に保管されていた大量のCLTを再利用した。ワークショップでは、会場である元店舗の古材を再利用しベンチを製作。

## 2. 背景・敷地

敷地は、宮城県石巻市の内陸部にあり、東日本大震災の大きな被害は受けなかった場所だという。この一面は15年前に宅地開発されて15件程の同じ表情の住宅が建つ。周辺は、高低差のない一面に広がる水田に囲まれた静かな環境である。

職住隣接の場として、店主の自宅の敷地内に、自分の店を増築し、予約制で1名の来客のために接客をしたい、という要望であった。

理容院は、内部面積 15 m<sup>2</sup> 以上と設置基準があり、その面積確保の一方で、限られた予算において、小さな床屋の小屋を設計することになった。

## 3. コンセプト

敷地の駐車場以外の空きスペースに約 5 m 角の立体を置き、平面的に縦横に2分割し、4つの領域を作った。正方形の1/4を導入部＝外部空間とし、駐車場からCLTの壁面に導かれ内部空間に入る。それ以外の3/4（L字空間）を内部空間とした。2分割する通り芯の位置は、バーバーチェアとその回りの接客スペースを考慮して微調整を行い、芯々 2,275 mm に決定した。2,275 mm × 5,005 mm が接客空間である。外部空間と繋がるようにガラス窓とし、敷地の向かいにある竹藪は借景として小窓から取り込んだ。

入口CLTの壁面の裏側にあたる残りの約1/4部分には、洗面、WCの水廻りとレジ台用棚、裏口を設置し、ハイスイドライトより採光を確保した。

店主の自宅とは直接繋げることなく、駐車場の奥に独立して小屋を計画した。周辺の住宅は全て同じ外壁材（サイディング）をまとっている。それと同じ仕上げ材とし、この住宅地の一部として、違和感をなくした。

白いサイディングでできた正方形の小屋において、CLTが十字に交差して空間を仕切りながら必要に応じて切り抜いて空間を繋げることを試みた（写真2）。CLTは廃材のため構造体としての使用は不可のため、軸組在来工法で設計した。しかし、厚み 90 mm のCLTは、仕上げ材、断熱効果、構造的な耐震効果が高い素材である。当初構造用に仕込まれたボルトについては、不要なものは取り除く作業を行い、再利用した。

この小屋で佇むことで、おだやかな環境の再発見がある。来客がプライベートな時間を楽しむ空間を目差した。

## 注

- 1) 広島女学院大学人間生活学部紀要第6号, 2019, pp. 95～100
- 2) 広島女学院大学人間生活学部紀要第5号, 2018, pp. 87～94
- 3) 広島女学院大学人間生活学部紀要第7号, 2020, pp. 89～94



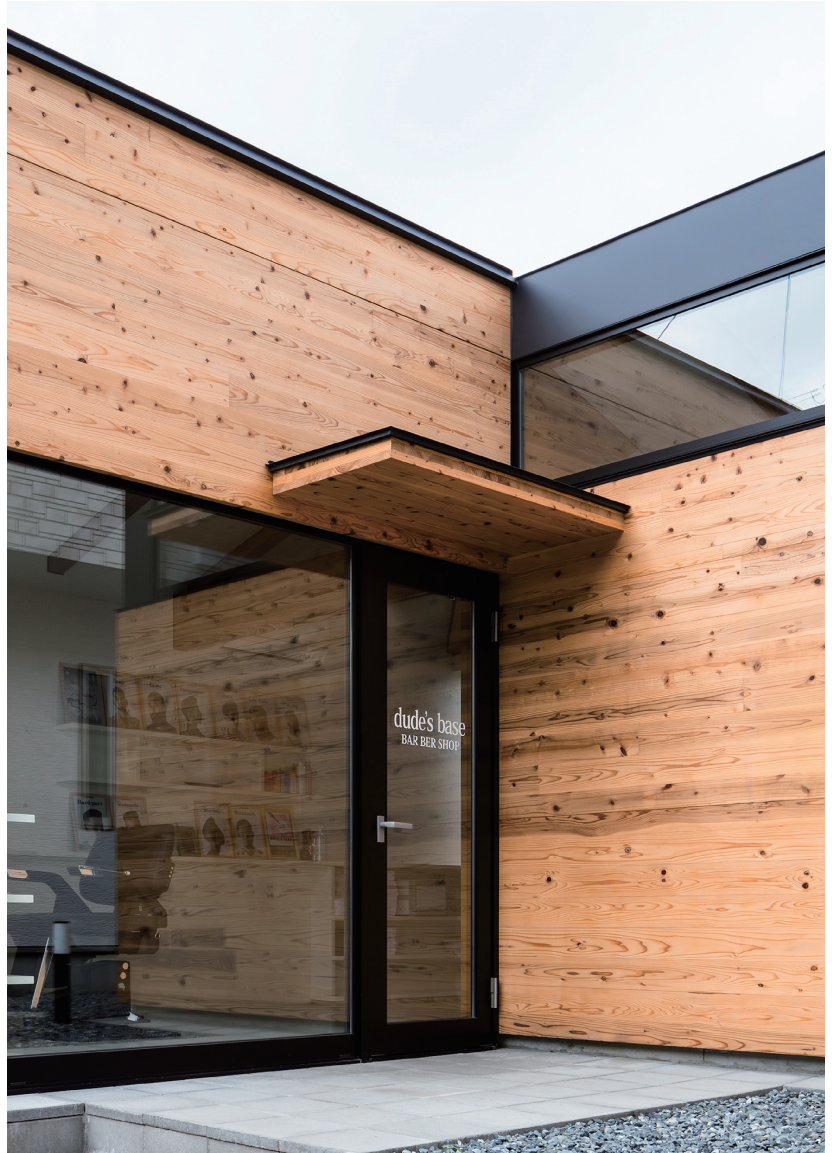


写真2 外観2  
CLT が十字に交差して、  
空間を仕切りながら繋げる



写真3 接客空間より水廻り空間を見る



写真4 水廻り空間より接客空間を見る

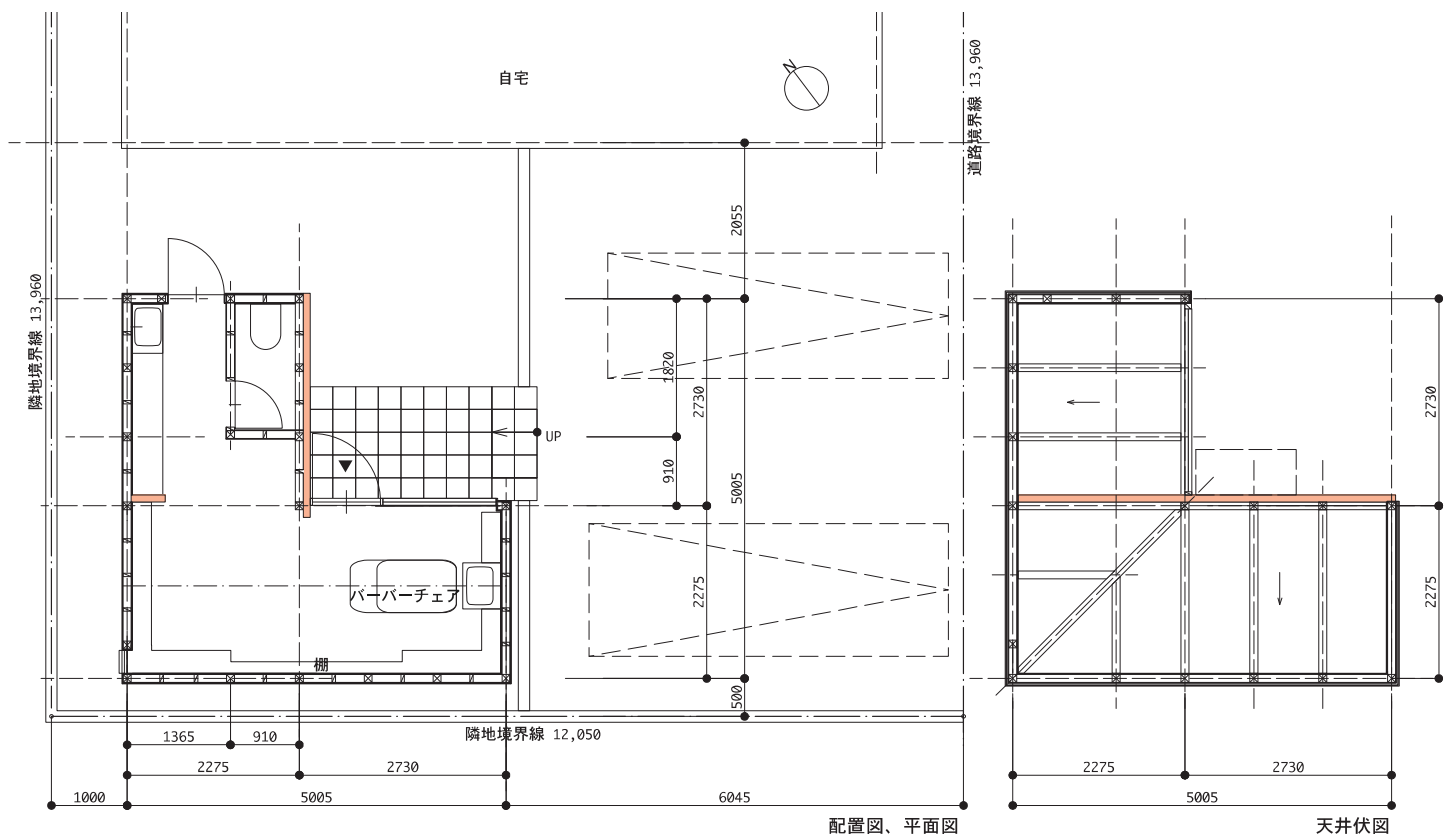


写真5 WC 天井は透明の中空ポリ  
カーボネート板





写真6 外観3 左が駐車場、CLTの壁面に導かれ内部空間に入る



図面1 平面図, 配置図, 天井伏図 1/100





写真7 接客空間から外部アプローチを見る 左にレジ台用棚・水廻り



写真8 接客空間  
芯々 2,275 mm にバーバーチェア 1 台を設置



写真9 外観4

白いサイディングで包まれた木造の小屋  
正方形の1/4を切り落とし、外部空間（アプローチ+入口）とした



写真10 接客空間

十字に交差している CLT  
空間を仕切りながら、必要に応じて切り抜き、室内空間をつなげる

## 設計データ

### 所在地

宮城県石巻市鹿又字蓬萊151

### 主要用途

理容院

### 設計・監理

細田みぎわ + Hosoda Archi-Studio/細田勇  
協力：studio Irodori 建築設計事務所/一色博貴

### 施工

細田勇/Hosoda Archi-Studio  
大工 細田勇、谷口和生、千葉翔揮  
設備工事 瀬川恵氏/ライフワークス

### 規模・構造

主要構造 木造在来軸組工法  
基礎 ベタ基礎  
階数 1階  
敷地面積 168.19 m<sup>2</sup>  
建築面積 17.59 m<sup>2</sup>（+既存住宅部分 51.03 m<sup>2</sup>）  
1階床面積 17.59 m<sup>2</sup>（+既存住宅部分 98.01 m<sup>2</sup>）

### 法規制

都市計画区域外、防火区域指定なし

### 外部仕上げ

床 コンクリート平板敷、砂利敷き  
外壁 サイディング t = 12 mm  
CLT t = 90 mm クリア塗布  
ガルバリウム鋼板 t = 2 mm  
屋根 アスファルト防水の上、ガルバリウム鋼板 t = 2 mm  
建具 アルミサッシュ、ペアガラス

### 内部仕上げ

床 構造用合板 t = 24 mm オスモ塗布  
壁 CLT t = 90 mm クリア塗布  
OSB t = 9 mm EP 塗布  
天井 構造体あらわし、OSB t = 9 mm EP 塗布  
<WC>中空層ポリカーボネート板 t = 10 mm  
棚 ランバーコア t = 24 mm、16 mm ペンキ塗り  
ベンチ 集成材 ランバーコア t = 24 mm ペンキ塗り

### 撮影

山内紀人/山内紀人写真事務所